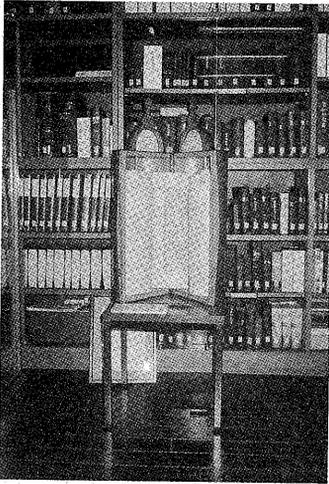


日本聖書協会聖書図書館



営団地下鉄「銀座」駅で下車し、銀座の雑踏の中を3分ほど歩いて行くと、聖書館ビルが見えてくる。その7階にある聖書図書館は外の喧騒とは隔絶された別世界の趣を呈し、まるで西洋の蔵書家の書斎のようである。

この図書館は日本で唯一の聖書の専門図書館として、日本聖書協会が長年にわたって集めてきた聖書を、広く一般に公開することを目的として1980年に設立された。利用時間は10:00~17:00、利用資格はなく、料金は無料。複写は一枚30円で可能だが、館外貸出はしていない。専属の職員は1名。随時、口答、電話、文書、E-mail (lib@bible.or.jp) で聖書に関するレファレンスに応じている。

2001年度の『日本聖書協会年報』には年間入館者1,062人、レファレンスサービス190件、524種類の言語で書かれた5,004冊の聖書などを所蔵している旨が記され

ている。1,425件の参考図書、3,493件(4,951冊)の聖書については、データベースの入力をすでに終了しホームページ[URL <http://www.bible.or.jp>]の蔵書検索システムで、蔵書内容を確認できる。

聖書図書館が所蔵する和訳、アイヌ語訳聖書の目録として『日本語聖書蔵書目録』(1990年末現在、刊行年順排列)もあり、現存する最古の和訳聖書で「ハジマリニカシコイモノゴザル」の書き出しで有名なギユツラフ訳「^{ヨハネ}約翰福音之傳」(1837年)から現代訳までを一望できる。

蔵書の中には、ヘブライ語の「アレツポ写本」(930年頃)やギリシア語の「ヴァチカン写本」「シナイ写本」(いずれも4世紀)、ケルト的キリスト教美術を代表する「ケルズの書」(8世紀)などの複製(ファクシミリ)が多数含まれている。また、初期の印刷聖書の一つ、パグニヌス訳ラテン語聖書(1528年リヨン刊、初版本)や優れた英訳聖書として知られるジェームズ王欽定訳(1617年ロンドン刊)なども所蔵。さらに、聖書に関する辞書、コンコーダンス、注解書、研究書も揃えている。

左上の写真図版中央に見える木箱に入った羊皮紙の巻物は、ユダヤ民族の生活の基盤として生き続けてきたトーラー(モーセ五書)の写本(1940年頃)である。

聖書図書館は、古代から中世、そして現代へと世界中のさまざまな人々に読み継がれ、光と力を与えてきた聖書の、悠久の歴史に思いを馳せる場所でもある。

2002年7月19日訪問

(人文課 川本勉)